

ヘッド12を備えたピストン11が、軸方向に摺動可能にはめ込まれている。ばね13は、ピストンをタンク・カバーから離反させる方向に付勢する。ピストン11のピストン・ヘッド12には、シーリング・プレートまたは場合によっては簡単なパッキング・リング14が固着している。タンク・カバー5を閉じるとパッキング・リング14は、シールされるべき開口部7を取り巻いている段付き部15に当接する。

#### 【0013】

ピストン11のピストン・ヘッド12とスリーブ10との間には、ピストン11に取り付けられたゴム製リング16が位置する。タンク・カバーを閉じると、ゴム製リング16はピストン・ヘッド12とスリーブ10との間で締めつけられるので、半径方向に外側へ押し出されて、給油管3の円筒状の拡張部8に設けられた溝17に嵌入する(図2)。この閉鎖運動の時、一端20をスリーブ10に支えられた留め金19の他端18が、カージオイド形の溝21の中で移動する。カージオイド形の溝21は図3に示すとおりであるが、図2では理解しやすくするため、ピストンの中央部分に1個余分のカージオイド形の溝を示してある。

#### 【0014】

留め金の他端18は下部転回点22から出発して、カージオイド形の溝21の2本の分岐コース23のうち的一方に沿って移動し、2つの円弧24のうち的一方に到達する。次に、タンク・カバー5に加えていた圧力を取り除くと、タンク・カバー5はコイル・スプリング13のレジリエンスによって、またその上更に、圧縮されていたゴム製リング16のレジリエンスによって、僅かに外側へ移動し、留め金の他端18はカージオイド形の溝の中心部のくびれた部分25にはまり込む。この状態で、スリーブとタンク・カバーに対するピストンの相対移動は阻止され、閉鎖部分6を備えたタンク・カバーは図2に示すとおりロックされる。その際、同時にパッキング・リング14が、シールされるべき給油管3の開口部7の周囲の段付き部15に密着する。

#### 【0015】

タンク・カバーを開くには、ばね13と、圧縮されていたゴム製リング16とのレジリエンスに逆らって、タンク・カバーを内側へ2、3ミリメートル押し込